

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.23 2010 6/1



ナカノシマ大学

千田 稔

(奈良県立図書館情報館館長)

「奈良から見た大阪
～平城京と難波京～」

申し込み受付中!

祝・平城遷都1300年
奈良から見た大阪

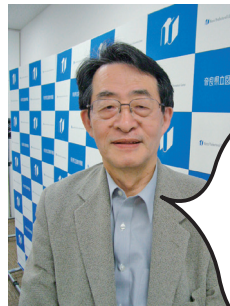


奈良から見た大阪

「なんと美しい平城京」と語呂合わせで覚えた710年の平城京遷都から、今年でちょうど1300年を迎える。奈良では平城宮跡を中心にして、記念祭も始まり、日本中の注目が今、奈良に集まっている。だから「奈良特集」ではない。平城京遷都をクライマックスとした奈良時代の出来事は、実は大阪にだって関係は大ありなのだ。かつて国家の中枢をなしていた場所、「奈良」というキーワードを掲げること、大阪や中之島のまた新たな一面が見えてくるのだ。

構成／大迫力(本誌) 写真／中村政秀(P3)

講師：千田 稔
奈良県立図書館館長
1942年奈良県生まれ。京都大学大学院博士課程中退。追手門学院大学助教授、奈良女子大学教授、国際日本文化研究センター教授を経て現職。平城遷都1300年祭協会理事も務める。専門は歴史文化論、歴史地理学。飛鳥～白鳳～奈良といった教科書的な歴史区分を捉え直した好著『平城京遷都 女帝・皇后と「ヤマトの時代」』(中公新書)ほか、著作は多数ある。



大阪の人は、奈良に足を向けて寝られませんよ！

第1講 「奈良あつての大阪」

● 千田先生は常々、「奈良あつての大阪」とおっしゃっていますよね。

まず、奈良には海がない。しかし海外と付き合うには当然、港が必要でしょ。海に面していた大阪には「難波津」と呼ばれる港があり、港湾都市として栄えるようになった。ただ、藤原京や平城京という大都市をバックに持つからこそ難波津という港がそれなりに栄えることができたわけです。港というのは、いつの時代もその背後に大きな都市・ヒンタ・ランドがないと栄えない。だから、そのおかげを被っているのが難波津であって、そこが大阪の始まりなわけです。ところが現代の大阪人は、「大阪」という大きな都市があるからこそ、関西の周辺都市は飯が食えるんだ」と考えている気がする。でもそれは思い上がりであって(笑)、「大阪はどいうやって育てられたか」という認識を持って自分たちのあり方を考えたら、考え方が変わってくると思うな。

註1 三輪山山麓に都があった時代
欽明天皇が磯城島金刺宮(しきしまのかなさしのみや・桜井市)を置いた6世紀後半頃。

奈良には日本のルーツがあると語る千田先生。そして同時に「大阪は奈良によって育てられた」とも。まずはこうした視点を足かりに、「奈良から見た大阪」を考えていこう。

● な、なるほど。つまり奈良が大阪を「育てた」と？

そう。5〜6世紀ごろ、例えば三輪山山麓に都があった時代(註1) には、交通や物流の要衝港としてはむしろ紀の川の河口部(現在の和歌山市)の方が重要だった。紀の川をずっとさかのぼり、吉野川水系を利用する。ところが飛鳥、藤原、平城京あたりになって次第に宮都が充実してくると、より便利な大和川水系を利用するようになって、難波津が栄えてくる。だから平城京がなければ、今日の大阪はあり得ない。港湾都市としてのきっかけをつくったのが、飛鳥・藤原の時代であり、平城京の時代であるから。そういう意味で、大阪は奈良に寄生してることになってはいけない(笑)。江戸時代に「天下の台所」と呼ばれるようになり得たのも、こうした歴史があるからこそ。そういうことを頭に入れておかなければ。



復元された平城宮の朱雀門

註6 難波長柄豊崎宮

652年、孝徳天皇が遷都。上町台地の北端にあった。前期難波宮とも呼ばれる。

註5 大津に都を置いた

667年に中大兄皇子の主導により遷都が行われた。近江大津京と呼ばれる。

註4 白村江の戦い

663年朝鮮半島で勃発した日本・百済と唐・新羅による戦争。日本・百済が大敗した。

註3 大隅宮

仁徳天皇の前の応神天皇が住んだとされる。現在の大阪府東淀川区にあったとされる。

註2 高津宮

4～5世紀頃、仁徳天皇が遷都した。所在地は詳しく分かっていない。

● そんな大阪にも都があった時代があります。都と港の関係性はどう捉えれば良いでしょうか？

大阪に都ができるのは、奈良時代以前にもあった。例えば仁徳天皇はたかつのみや高津宮（註2）にいたし、その前の応神天皇は大隅宮（註3）に拠点を置いた。その場合は、都と港をドッキングしておくという便利さがある。ただ危ないのは、外国から攻められた時には一発でやられるということ。だから奈良ぐらいのところへ引き込んでおいた方が安全ではある。奈良盆地は周囲を山で囲まれた防御的地形だから。

はつきりとは言えないが、平和な時代ほど都は港に近づく。例えば、白村江の戦い（註4）の時は中国・唐に攻められるかもしれないので、中大兄皇子は大和にもいられないで大津に都を置いた（註5）。朝鮮半島の場合は中国大陸と陸続きだから比較的情勢は分かりやすいけれど、日本は東アジア諸国の動向に敏感というか、島国ゆえに国際情勢が読めない。いつ何が起るかわからない。日本は大陸で起こっていることが分からないぶん、いつ攻められるかわからないという危険性を認識していた。と同時に、向こうの世界が分からないから能天気だった。この2つの側面があるね。

● 652年に孝徳天皇が都とした難波長柄豊崎宮は、すぐにまた飛鳥へ遷都してしまいます。これもそつした海外情勢との関わりでしょうか。

孝徳天皇が難波長柄豊崎宮（註6）に行ったのは、やや唐突な印象がある。これは645年に飛鳥で大化の改新という大クーデターがあったことと関係している。飛鳥では不穏な状況が続く中で、外へ出たいという気持ちがあったんだろう。ところが、一年も経たないうちに中大兄皇子をはじめ妻も母親の皇極皇太后も帰ってしまう。飛鳥が落ち着いたから、もう一度やり直そうという機運があったんだと思う。難

波に比べて、飛鳥・奈良の方が重要な場所であるという

のは天皇家に代々続く考え

えだったから。唐と新羅が

かなり強かったから、防衛

上の問題もあっただろうね。

Check! 「宮」と「京」

古代の都城は、壮大な宮殿が並び、そこで天皇や役人が政務を執り行う「宮」と、その周囲に広がり一般の人たちが生活をする「京」からなる。そのため、「○○京」といった場合には庶民の生活区域も含んだ都を指す。また、人々は住んでいなくとも宮殿だけが建つ場合もあり、その場合は「○○宮」と呼ばれる。

Check! 平城京は 「藤原氏の都」

そもそも平城京への遷都が藤原不比等の強い意向のもとになされたこと、都を走る大きな道路である三条大路沿いに藤原氏の氏寺である興福寺があること、また宮や京の構造自体に藤原氏のために造られた部分が見られることなどから、千田先生はこう指摘している。これについては『平城京遷都』（中公文庫）に詳しい。

つたん捨てた平城京には戻れない。どうしようかとなった時に、前の天皇である元正女帝は難波に対して思い入れがあるから、聖武天皇に「難波を都としなさい」と言っただけです。

●難波京がそんな「ピンチヒッター」のような存在だったとは！

元正天皇はもちろん平城京で即位しているけれども、わざわざ難波の南（現在の和泉府中あたり）に離宮を造るんです。都があつてその南に離宮を造るといのは、平城京の南、吉野に離宮があつたのと同じこと。それほど元正女帝は難波京というものに対して思い入れがあつた。元正女帝には全く藤原氏の血が流れていないから、藤原氏の都である平城京



註14 橘諸兄

敏達天皇の皇子だが、臣下に下り橘姓を名乗る。有力な政治家として聖武天皇を支えた。

註13 複都制

複数の都を置く制度。天武天皇は難波と飛鳥の2箇所を都とする旨の詔を出している。

註12 則天武后

唐の皇帝・高宗の妻。全州に作らせた「大雲教寺」は日本の国分寺制度の元となった。

註11 恭仁京

740年、聖武天皇が平城京から遷都したが、3年ほどで再び戻った。現在の木津川市。

註10 壬申の乱

天智天皇の息子・大友皇子と天智天皇の弟・大海人皇子の間の対立。大海人皇子が勝利。

は嫌だったんじゃないかな。難波宮は天武天皇が即位して複都制^{註13}を宣言した時に、まず難波に造ろうといってきた。だから平城京は藤原氏の都だから許せないけど、難波宮はわれわれの祖先が造った都だから許せる、と。そういう理由もあつて元正女帝には難波に思い入れがあつた。それで聖武天皇は行くところが無いから、一旦は難波に向かうんだけど、いよいよ明日、難波宮を皇都としますという宣言をしなければならぬのに、その前日に紫香樂に帰ってしまう。それほど紫香樂に思い入れがある。なぜなら自分が大仏を造っているから。しかたがないので左大臣の橘諸兄^{註14}が天皇に代わって天皇の勅^{みことづかひ}を読み上げるんです。「難波をもつて皇都とする」と。ところが土壇場になって聖武天皇はそんな小さな難波京は嫌だ、と。やっぱり広々とした平城京が頭にあって、自分が捨てた都だけど、まだそこまで荒廃してない、帰ろうと思えば帰れる……と考えてしまう。そしていよいよ帰るべき時期になって、「平城京に帰ってもいいだろうか」というのを、太政官^{たうけん}という天皇のブレーンの組織に相談するわけ。太政官は帰ってよろしいと言っ。さらにもうひとつ、南都の四大寺（大安寺・興福寺・薬師寺・元興寺）に相談するんです。この四大寺に相談したら、こちらも帰ってきてよろしいと言っ。それでやっ、お墨付きをもらって平城京に帰ることができた。

一方、紫香樂では放火や山火事が頻発して大仏なんか造ってられない状況になる。たぶんその妨害をしていたのは元正天皇なんです。それで結局、紫香樂がダメになったから、平城京に戻り、東大寺の大仏を造るようになったんです。

難波京というのは天皇の都として天武天皇が号令をかけて造った都であつた。同じように、平城京の前の藤原京は天武天皇が造ろうとしたもので、これを捨てて平城京へ行くということは天皇家にとつてはとも許し難い行為ですよ。都について考えた時、奈良と大阪の間には都と港という関係と、藤原氏と天皇家の対立も隠されているわけです。

Check! 橘諸兄、異例の 「遷都の勅」。

「勅」とは言うまでもなく、天皇によって発せられる言葉である。それを左大臣である橘諸兄が行うというのは異例中の異例である。ちなみに、中之島からもほど近い大阪歴史博物館の古代フロアでは、この日の様子を再現したCG映像が見られるが、聖武天皇は登場していない。

第3講 「難波津のすがた」

●大阪は港として発展してきた歴史があるわけですが、中でも重要な「難波津」はどのあたりにあったのでしょうか。

古く5世紀の頃、応神・仁徳天皇の時代には今の天満橋あたりにあったと考えられている。今の太川が流れ込んできているあたりは「堀江」と呼ばれ、欽明天皇の頃には重要な港だった。奈良時代、つまり8世紀頃になってくると、「難波御津」と呼ばれるようになり、これは今の三津寺町あたりだと思われる。天満橋付近には土砂がどんどん堆積して川底が浅くなり、大型船が入れなくなってきたために移動したのだろう。京都から淀川を下ってくる小さな船なら土佐堀、天満橋のあたりを平安時代にも使っていたけど、大型船舶は無理。もう少し柔軟に考えると、この地域一帯を難波津と呼んでいた可能性はある。ワンポイントでこた、というのはいくつ難しい。時代の推移を念頭に置きながら、天満橋から三津寺までの広い範囲に及ぶ難波全体の港と捉える方がいいかもしれない。どこの国でもそうだけど、港には多くの国の人たちが集まる場所。とにかくいろいろな場所から船に乗ってやって来ては住みついて、人口はかなり多かつたはず。役所的な大きな建物や倉庫もたくさんあった。また、漁労民もいれば、荷物を運搬する人間もいて、そうした人々が住む小さな家が密集するという風景。その意味では都のような計画的都市ではなく、自然発生的な都市と言える。いわゆる「街場」というやつかな。

●仏教が日本に伝来した時、中国から届いた仏像を堀江の港から川へ流して捨てるという出来事^{註15}があったようですが…?

港から向こうは人間の住んでる世界ではないという考えがあったのにとどろう。人間の住んでいるのが文化的な場所であったとすると、海というのはマージナル（周縁）な場所。そこへ捨てることによって仏像の持つ力をなくそうとしたわけだ。

この事件と同じ欽明天皇の頃に、「難波祝津宮^{註16}」という宮があったこと

都のある場所は転々とするものの、難波の地が一貫して担ってきた役割は、宮都の外港としてのものであった。それは一体どのようなものだったのか。



古代における大阪の存在感が大きかったと思うよ。国家の一番重要な港があったわけだから。

が知られている。「祝津」というくらいだから神祇祭祀の場であったもあつたのだろう。この場所ははっきりとは分かっていないが、堀江あたりを想定してもいいかもしれない。堀江では平安時代になると八十島祭^{註16}という儀式が行われるようになる。それが奈良時代からずっとやってきたのかと言えは、途中がすっぱり抜けていて積極的な資料が何もない。ただ、「祝津」というのは神信仰に由来する名前だったと思う。だいたい神が海の向こうからやってきた場合は、陸地の先端にまず留まる。だから「ミサキ（岬）」というのは、神が留まる先端の地を意味する。堀江だって海の入口だから神信仰とのつながりは考えられるけれども、国家的な大きな祭が行われた記録は平安時代の八十島祭までない。ただ、天皇家の未婚の女性が伊勢神宮の斎宮として仕えた後、その時々都へ帰ってきた時に難波へ行って、斎宮であったことを祓うという儀式は難波津でやってきた。だから単なる港ではなく祭祀を行う場所でもあった可能性はもちろん、おいにあったと思いますね。

註15 仏像を捨てる
538年、仏教が日本に伝わった際、欽明天皇は仏像を川に流して捨てるように命じた。

註16 八十島祭
天皇の即位礼の翌年に行なわれた皇位継承の儀式の一つ。難波の海に浮かぶ島々の霊を呼び寄せ、天皇となったことを祝福してもらう儀式と言われる。

おわりに

邪馬台国が奈良にあった可能性は高くなっているが、卑弥呼の時代が3世紀、そして平城京ができたのが8世紀、その間だいたい500年くらい奈良はずっと日本の首府であり続けた。海外の文化をどんどん取り入れ、日本化し軟着陸させるために様々な工夫をしながらかけてきたエネルギーは大きい。遷都1300年と言われるが、遷都だけに目を奪われ過ぎている部分もある。平城京は74年間の都だけれども、よく74年ももったという印象。この間に国家の安定した基盤づくりができた。京都は「千年の都」だと言っているけど、あれはずっとその場所でも色んな時代を追ってきただけのこと。文化は非常に爛熟しているが、それまでの基礎固めとして平城京があったからこそ実現した。単に1300年前にあった出来事としてのではなく、それからの74年間、奈良が果たした役割というものに思いを馳せてほしい。

現在にも残る「難波津」発見！ 大阪府立中之島図書館の館報「なにわづ」

創刊は昭和33年(1958)となかなか歴史は古い。寺下誠副館長に
なんともシブいタイトルの由来を尋ねると『難波津のまなかに
植えし知恵の木は五十年を経て大樹となりぬ』昭和29年の図書館
創立50周年記念に、歌人川田順から贈られた歌です。これからと
ったと考えられます。

創刊当時、図書館の広報ツールとしてはもちろん、司書たちの
研究発表の場であり、時には田辺聖子、佐治敬三らが図書館の発
展を願い寄稿するなど、大阪文化を育む役割を果たしていた。現
在は収集資料の紹介や施設利用の案内などがメインに(実は過去
に『月刊島民』を紹介してくれたことも)。広報の役割はメー
ルマガジンに奪われつつあるが、『なにわづ』は歴史ある館報。内
容充実を図って発行を続けていきたい」と寺下副館長は意気込む。



次号発行は9月。
入手は図書館HPから。
<http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/naniwazu.html>

中之島 奈良マンダラ

中之島の周りにも奈良時代や、
奈良の都とつながるあれこれがいっぱい。

記念すべき年だからこそ、
見たり聞いたりしてみたい。

取材・文/大迫 力 田井麻希(共に本誌)



奈良を知る講座、続々。

6/2(水)・9(水)・30(水) 朝日カルチャーセンター公開講座
「古代史を問う 平城遷都1300年」

教科書などに描かれる古代の常識にとらわれない、歴史の裏に隠され
た真実に迫る講座。6月9日(水)は巻頭ページにもご登場の千田稔氏が
「平城京の特色」と題して、当時の権力者、藤原氏の都であった平城京に
ついて読み解く。6月2日(水)は「正倉院とその宝物」、6月30日(水)
は「平城宮のまつり」をテーマに各エキスパートが解説。一歩踏み込ん
だ古代史を知りたい方はぜひ。

●いずれも受講料3,255円(一般)。お申込み・お問い合わせは朝日カル
チャーセンター中之島教室まで。☎06-6222-5222

7/6(火) よみうり天満橋文化センター公開講座
「今こそ知りたい女帝の歴史」

平成の世、女性天皇の問題が取り沙汰されているが、かつて古代には6
人の女帝がいた。平城京も女帝によって造られた都。なぜ女帝は出現し、
歴史の中で消えていったのか。歌人の林和清氏とともに古代からの女帝
の歴史を紐解きながら、未来について考える10回講座。7月6日(火)の
第3回目は、天智、天武両天皇の母である、皇極・斉明天皇がテーマ。

●1回ずつの受講も可能。受講料2,100円。お申込み・お問い合わせはよ
みうり天満橋文化センターまで。☎06-6941-1112

聖徳太子が建てたお堂があった。 堂島薬師堂

本誌でも以前取り上げたことのある堂島薬師堂。UFOを思わ
せる未来感覚なデザインに反し、創建されたのは飛鳥時代、推古
天皇の御代(593～628年)だったというからすごい。実はこちら
のお堂には、あの聖徳太子を助けたという逸話が伝えられている。

江戸時代の前期、延宝三年(1675)に書かれた古文書『芦分船(あ
しわけぶね)』に、「聖徳太子が四天王寺創建時に建築用材の運搬
船が暴風雨で難破した際に、洲の中に流れつきお堂を建てた」と
の記述があるそうだ。そもそも堂島の「堂」とは、この薬師堂の
ことを指し、「堂のある島」というところからこの地名が生まれた。
難波津や堀江から発着した船からも、このお堂が見えたのだろう。
奈良の都にも多大なる影響を与えた人物の足跡が、地名にも残っ
ていた。

6/4・11(金) 大阪歴史博物館 なにわ歴博講座
「飛鳥奈良時代の難波」

春・秋ごとにテーマを変えて開かれる人気講座。6月4日(金)は「難
波宮と大極殿」。古代の王宮で最も重要な公的殿堂であった大極殿の変遷
と、難波宮の役割を考える。6月11日(金)は外交の窓口であった難波
と百濟の関係を見る「飛鳥時代の難波と百濟」。博物館ならではの充実し
た資料をもとに担当学芸員が解説してくれる。受講料200円。事前の申
し込みは不要。

●当日6:00PMまでに博物館4階講堂に集合のこと。お問い合わせは大阪
歴史博物館なにわ歴博講座係まで。☎06-6946-5728

6/4・18(金) NHK文化センター公開講座
「平城遷都の謎に迫る」

古代最大規模の都であった大藤原京を、たった16年で捨て平城京に遷
都した背景にはさまざまな謎が残されている。藤原不比等をはじめとし
て奈良時代に大きな権力をもった藤原氏の関係と共に、古代史の権威で
ある上田正昭京都大学名誉教授が平城遷都の謎を解明していく。第1回目
は6月4日(金)、2回目は6月18日(金)に開催。

●受講料5,880円(2回分)。お申込み・お問い合わせはNHK文化セン
ター大阪教室まで。☎06-6343-2281



千田稔先生がナカノシマ大学7月講座に登場！

平城遷都1300年祭で注目を集める奈良と大阪の関係性について、さらに深いお話を展開。2つの都市にまたがる壮大な古代史ドラマの幕開けです。
→詳しくはP9へ！

トウミン月報

2010年6月1日発行

この夏、国内男女トップ選手が集まる「ビーチバレー大阪カップ」が中之島で行われる。観客席からコートが近いビーチバレーは、選手の表情や駆け引きの様子を目の前で楽しめるのが醍醐味。男女各

8組が出場予定で、男子ではバレーボール日本代表としても活躍した朝日健太郎選手がエントリ。女子ではビーチバレーの人気を牽引してきた浅尾美和・西堀健実両選手が

ペアを解消し、それぞれ新たなパートナーと共に試合に望む。「元ペア」対決が実現するかも見ものだ。堂島川の風に吹かれながら、都会の真ん中で熱い戦いを応援しよう。チケットは京阪電車三条駅・丹波橋駅・枚方市駅・京橋駅のほか、各種チケットセンターにて発売。(田井麻希 本誌)

ビーチバレーの
国内トップ選手が集結!

MBSテレビ 4月19日放送
MBS「おはよう大阪」
MBS「おはよう大阪」

ビーチバレー大阪カップ
中之島大会

7.15木~18日 中之島ビーチ (特設会場)

前売券: 7月15日(木): 1,000円 / 7月17日(土): 1,500円 / 7月18日(日): 1,500円
当日券: 7月15日(木): 1,000円 / 7月17日(土): 1,500円 / 7月18日(日): 2,000円

※小学生以下は前売り、当日券共に500円。すべて自由席、当日限り有効。
※雨天決行。また荒天中止の場合は払い戻し。
※ビーチへの入場は無料ですが、メインコートでの試合観戦にはチケットが必要です。
問い合わせ/キョードーインフォメーション ☎06-7732-8888

●最新情報は <http://www.mbs.jp/beachvolleyball/>

「ビーチバレー大阪カップ 中之島大会」

7月15日(木)~18日(日) 中之島ビーチ (特設会場)

前売券: 15日(木)、16日(金) 1,000円 / 17日(土)、18日(日) 1,500円

当日券: 15日(木)、16日(金) 1,500円 / 17日(土)、18日(日) 2,000円

※小学生以下は前売り、当日券共に500円。すべて自由席、当日限り有効。

※雨天決行。また荒天中止の場合は払い戻し。

※ビーチへの入場は無料ですが、メインコートでの試合観戦にはチケットが必要です。

問い合わせ/キョードーインフォメーション ☎06-7732-8888

●最新情報は <http://www.mbs.jp/beachvolleyball/>

昨年9月に発行した本誌「ダイビル・マニア」特集では、島民ではないよさんの視点からダイビルへの想いをエッセイにしてくれた文筆家の木村衣有子さん。このたび上梓した『大阪のぞき』は、現在は東京に居を構える筆者が、住んだことのない大阪に通ってのぞいた今の風景がやさしい文体と写真で語られている。木村さんのフィルタを通して、こころ馴染みのある場所やモノも、何だか違う景色に見える。しましうこの大阪案内は、大

阪に住み、通う人達にこそ読んでほしい。中之島の風景も多く取り上げられており、なんと本文の中に『月刊島民』の名が登場する頁も(どこで出てくるかは読んでのお楽しみ)。カバリーに使われた写真は、リーガロイヤルホテル内にある「メリッサ」のソフトドーナツ、そして裏表紙は淀屋橋の風景。このことから木村さんのシマへのたのしみ愛着が感じられる一冊となっている。(田井麻希・本誌)

大阪のぞき
木村衣有子

フロン東京
大阪本登場!
目線の

知ってるはずの大阪の、
知らなかったこんな顔。

かき、のぞいて、写し撮った
東女による、特でやわらかな大阪案内。

京阪神・近畿エリア

『大阪のぞき』木村衣有子 (京阪神エルマガジン社/1,200円)
ミーツ・リージョナル誌の人気連載をまとめたもの。大阪を観光、甘辛、喫茶、観賞、定番の5つのジャンルにわけて紹介。久坂部羊さんのエッセイ「中之島ふらふら青春記」に登場した紅茶専門店「赤い鳥」も登場している。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

2010年
7月講座

「奈良から見た大阪 ～平城京と難波京～」

千田 稔

奈良県立図書情報館館長

千田先生、
大阪があるのは、
奈良のおかげって
ほんとですか？



奈良と大阪、1300年前の「都」には、知られざる古代史物語があった！

奈良に都があった「ヤマトの時代」は、仏教伝、中国・朝鮮との外交、はたまた大仏の造立など、教科書で誰もが知る大プロジェクトによって日本の国家とし



ての基礎が築かれていった。中でも平城京遷都は大きなターニングポイント。天皇中心の中央集権国家が確立

され、その精神的支柱として仏教文化を盛んに取り入れていった。

同時にそれは大阪にとっても大きな意味を持つ。平城京の外港であった難波津から大阪の発展は始まった。そして744年には、離宮であった難波宮への遷都も行われている。こうした歴史は現代を考える上でも重要であり、何より「日本や東アジアの文化・経済を理解することにも役立つ」と語る千田稔先生。平城京遷都1300年というメモリアルイヤーの今

こそ知りたい、奈良と大阪の間に生まれた古代史ドラマとはいかに!? 今月号の特集とセットでお楽しみ下さい。

◎今回の教室

追手門学院大阪城スクエア

4月に開催された「大阪アースダイバーへの道」など、ナカノシマ大学ですっきりおなじみとなったホールが今回の会場。大阪城の向こうにかつてあった難波京に思いを馳せつつ、古代の風景を頭に描くにはぴったりの場所です！



募集要項

「奈良から見た大阪 ～平城京と難波京～」

講師/千田 稔

日時/7月27日(火) 7:00PM～(開場6:00PM～)

会場/追手門学院 大阪城スクエア

受講料/2,100円

定員/400名

主催/ナカノシマ大学事務局 追手門学院

協力/大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学7月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は <http://www.nakanoshima-univ.com>

お問い合わせ06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



4月16日(金)

「大阪アースダイバーへの道」

@追手門学院大阪城スクエア 講師/中沢新一 釈徹宗

縄文時代の地図を手掛かりに街を歩き回り、土地の記憶と文化的基層へ分け入って行く「アースダイビング」なる試み。発案・提唱者である中沢新一先生は、東京に続く舞台に大阪を選んだ。その強力な道先案内人となるのが、宗教から文化まで大阪の成り立ちを知り尽くした釈徹宗先生。上町台地の突端、大阪城を目の前に繰り広げられた刺激的な対話は、歴史・民俗・宗教・思想・経済…と自在に広がり、大阪人自身も気が付かずにいる街や文化の深層へと、400人の受講生たちをいざなった。

アースダイビングの発想の原点は、中沢先生が東京を歩くうち、川筋に点在する無数の神社や祠に気付いたこと。それらを地図に落としていくと、現在より50mも水位が高かった縄文海進期の海と陸地の境目に並んだ。かつて岬の突端だった高台には権力者の墳墓、時代が下れば城などができていく。岬の付け根の斜面地には庶民が築いた横穴の墓。そこは「モリ(森)」と呼ばれる死者埋葬の地となり、宗教施設が集まっていた。

「東京という街は、今もこの縄文時代の地形をほとんど壊さずにできている。自在に改変・造成できるのが都市だとするなら、表面に古代の記憶がべったり貼り付いた東京は、都市とは呼べない。ある意味、田舎なんです」というのが、ア



『アースダイバー』所収の東京版マップを見ながら、立ち上がって熱く解説する中沢先生。

ースダイビングによって中沢先生があぶり出した東京の深層であった。

では、次なる舞台を大阪に定めた理由は何か。「なぜ京都や奈良でなく、大阪なのか」と問う釈先生に答えて、中沢先生は語る。「大阪は、京都や奈良のような最初からの計画都市とは違い、時代ごとに内側からダイナミックに街を造り変えてきた日本で唯一の都市。大阪を調べることに現代性があるし、未来的でもある」。

手始めとして、2人は昨年の夏、上町台地とその周辺を歩いた。猪飼野、今里、桃谷。生國魂神社に四天王寺に合邦辻。新世界や飛田新地…。「中沢先生は有名なお寺や遺跡より、名もない祠や怪しげな路地でよく立ち止まり、写真を撮っていた。土地に蓄積されたすべての生と死を足の裏に感じながら歩くことを楽しんでいるようでした」とは釈先生の感想だ。

一方、中沢先生は一つの発見をしたという。「宗教都市、軍事都市、商業都市…と、大阪は自在に改変を重ねてきたけ

れども、根本部分のトポロジー(位相)は変わっていない。そのありように都市性を感じるんです」。

こうした大阪独自の文化や価値観は、今後の日本に新しい道を拓く可能性があるのに、今は大阪の人や街自身がそれを忘れつつあるのではないかと、というのが、2人に共通する問題意識。だとすれば、意識的に取り戻していく必要がある。これから本格的に始まるアースダイバー大阪編が、大きなヒントになることは間違いない。



この日はナカノシマ大学運動企画として「中沢新一&釈徹宗フェア」を開催してくださった[ジュンク堂書店梅田ヒルトンプラザ店]の方々が、会場にて出張開店。講演終了後にはお二人の著書が飛びように売れた。



講演終了間際、フロアに「聴講生」として来られていた神戸女学院大学の内田樹教授、そして平松邦夫大阪市長が講師二人に呼び出されて飛び入り参加! これには聴衆もびっくり。4人になった壇上の話題は尽きず、予定時間を30分オーバーするほどヒートアップした。

LEDで光る

「いのり星」を川へ流し、
光り輝く「天の川」を
生み出します。

水の都大阪―わたしたちの生命をはぐくむ川の流れ、それは都市のやすらぎ空間であるとともに、貴重な観光資源です。大切な「川」を見直し、もっと魅力ある水都にするべく、七夕の夜に新たなイベントを創造しようと考えました。それが昨年、社会実験として始まった「平成OSAKA天の川伝説」です。

これにはもうひとつ大事なメッセージが込められています。年に一度の七夕の日に、“誰かのために、何事かのために願ひ、祈る”ことです。その願ひのメッセージを短冊に託し、八軒家浜で笹に飾ります。一人ひとりの願ひが大川の水面に光輝く「天の川」とともに、大きな願いとなって天（地域や社会）に届けようという思いが込められています。

7月7日(水)

午後7時～午後9時

開催場所 放流エリア／大川（八軒家浜一帯）

回収エリア／堂島川 難波橋前

土佐堀川 栢檀木橋前

主催 平成OSAKA天の川伝説2010運営委員会

構成／平成OSAKA天の川伝説実行委員会

(財)大阪21世紀協会

NPO法人大阪水上安全協会

あなたの願いが、
光り輝く天の川となる。



©2009 The Legend of Heisei Osaka Amanokawa Executive Committee

●短冊に願い事を書いて、天の川伝説に参加しませんか？

特設受付、公式HPなどからご参加下さい。願い事は、お渡しする短冊ハガキに記して投函下さい。
いのり星は、実行委員会事務局でお預かりし、まとめて放流いたします。

参加費／1口1,000円

祈願のあかしとして、天の川短冊はがき1枚、ポストカード2枚、絵本1冊をプレゼントします！

問合せ／平成OSAKA天の川伝説実行委員会事務局 <http://inoriboshi.jp>

TEL：06-6448-2727 FAX：06-6448-6006 E-mail：info@inoriboshi.jp



We wish you have a dream upon a River...

平成OSAKA天の川伝説
2010

21世紀の懷徳堂プロジェクト

6月の時間割

ナカノシマ大学ほか、
中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。



大阪カルチャークラスター!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。※ワークショップについてのお問い合わせは各店舗へお願いします。

3	木	7:00PM~	「夢のたね2010 OSAKA『ユメタネトーク』Part2 天体と祝祭一水と光の都市<大阪>」 山田創平(京都精華大学講師) 参加費:1,000円(フード・1ドリンク付) 水が満ち海へとつながる都市・大阪。 水辺に生きる人々は月と星、光と闇に向き合ってきた。「光」で大阪を読み解きます。	会場 E
5・6	土・日	1:00PM~ 4:00PM	「不思議の国のアリスのうさぎをトートバックに刺繍しましょう」annas かわばたあんな(刺繍作家) 定員:各日先着5名 参加費:3200円+材料費1,000円 ステッチideas掲載刺繍作家annasさんと一緒にオリジナルトートバックを作ります。初心者OK。※ボールペンを持参して下さい。	会場 F
8	火	0:00PM~ 3:00PM	「ココロビオティックセミナー」松見千奈美 参加費:3,500円(ランチ・お茶付) マクロビオティックの食を通して、ココロを見つめる。中高年を健康に、介護のココロ構え、いきいきと生きるには?	会場 H
12	土	5:00PM~ 7:30PM ※終了後、 交流会あり	「奥村昭夫デザインワークショップ」奥村昭夫(グラフィックデザイナー) 受講料:3,800円(一括払いの場合、割引あり/交流会の料金は含みません) 第4回目となる今回はゲストを迎えます。グ リコのロゴや牛乳石鹸のパッケージなどで有名なグラフィックデザイナー、奥村昭夫氏によるデザインワークショップ。	会場 C
12 19	土	2:00PM~ 3:00PM	「mag mag factory」Nagisa 構なざさ(マグネット作家) 定員:各日4名 参加費:2,100円(基本材料費、送料込み) あなたの好きなものや大切なものを閉じ込めた、世界でたったひとつのマグ ネット"mag mag"を一緒に作りましょう。※マグネットサイズは直径約5cmです。	会場 F
13	日	11:00AM~ 2:00PM	「ポーポー屋料理教室」中東ゆうこ(ポーポー屋) 参加費:4,500円(仕込み用梅・ごはん付) 一年に一度の「梅の手仕事」(無農薬の南高梅を使用) 青梅を使った梅の手仕事。または完熟梅があれば梅干しを作ります。	会場 H
14	月	7:30PM~ 9:00PM	「美術史ははじめの一步」樋口ヒロユキ(美術評論家) 受講料:1,500円 カフェでゆったり美術史を楽しむ、初心者向けの講座です。美術の見方がよくわからないという方もお気軽にどうぞ。	会場 A
19	土	10:15AM~ 1:15PM 2:00PM~ 5:00PM	「トリ・スクール」岡山 拓(美術家) 受講料:2,500円(1ドリンク付) 展覧会カタログを参照しながら、初めての人も分かるようにゆっくり美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場 G
19	土	2:30PM~ 4:30PM	「讀えよワイン!! 初心者のあなたもめくるめく世界へ」NLee(ワインコーディネイター/ボンバール江戸堀店主) 参加費:2,000円 美味しいワインを飲みながら、ワインライフ半世紀の講師が得するワインの飲み方、買い方、付き合ひ方をお伝えします。	会場 D
26	土	1:00PM~ 4:00PM	「FIQ workshop」東和子(造形作家) 定員:7名 受講料:3,500円+生地代(1ドリンク付) FIQの北政生地で作るショルダーバッグ。申込はFIQへご来店又はメール・お電話にて受け付け。(氏名・連絡先・住所・メ ールアドレス) ※参加の皆様には事前に使用する生地をお選び頂きますので、6/20までにFIQショップへお越し下さい。	会場 G
26	土	11:00AM~ 0:30PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子(料理研究家) 受講料:2,000円(料理費込み) 「ネリkitchen」の豊村さんが、「かぼちゃ」を使った料理のつくり方をご紹介します。	会場 B
29	火	7:00PM~ 8:30PM	「落語を楽しむ」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキスト付) 上方落語に描かれる登場人物の目線や背景など理解しておく、落語鑑賞がもっともっと面白くなります。	会場 D
29	火	7:30PM~ 9:00PM	「フィリップ・アリエス『子供の誕生』を読む」山納洋(common cafe) 参加費:1,000円 フィリップ・アリエスの名著『子供の誕生』を素材に、社会学的視点について考えていきます。	会場 A

A common cafe

大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F

☎06-6371-1800

<http://www.talkin-about.com/cafe/>

B 中崎町サロン文化大学

大阪市北区鶴野町

<http://nakazakicho-u.blogspot.com/>

C O O O (オー)

大阪市北区西天満4-1-5

若松町センタービル 2c

☎06-6362-5150

<http://www.outooffice.jp/>

D フレイムハウス

大阪市中央区淡路町1-6-4

☎06-6226-0107

misalele39@gmail.com

<http://www.katana.cx/~fureimu/>

E 文化農場

大阪市中央区北浜東1-33

広家ビル2F

☎06-6937-2127

<http://ncf0303.blog68.fc2.com/>

F タビエスタイル

大阪市中央区南船場4-4-17 B1

☎06-4963-7450

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~tapie/ppuku-popo@rio.odn.ne.jp>

G 欧風食堂 ミリバル

大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.

☎06-6531-7811

<http://www.artniks.jp/millibar/>

H 鳥かごキッチン

大阪市西区北堀江1-14-21

鳥かごビルディング2F

☎06-6535-0255

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

4 11	金	1:30PM~ 3:00PM	「おもしろ日本語学〜いまどきの若者ことばと気になる言葉遣い」小矢野哲夫(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 受講料3,150円(全2回) 集団が機能するために使用される若者ことばが持つ特徴を、言葉の構成、意味、使用の機能などの観点から解剖します。気になる言葉遣いについては、「しず言葉」「サ入れ言葉」「ファミコン言葉」などについてなぜ気になるのか、原因を探る視点で考察します。
---------	---	-------------------	--

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、ファックスか、朝日カルチャーセンターの窓口でも直接申し込むことができます。
問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224 <http://www.asahi-culture.co.jp/index.html> ☎06-6222-5224 FAX06-6222-5221

●大阪・京都文化講座「京と大坂一歴史・文化・学問をたどる」 大阪大学が立命館大学文学部、立命館大阪オフィスと共催しているセミナーです。

14	月	2:00PM~ 3:40PM	「淀川治水を通してみた江戸幕府畿内治水政策の転換」村田路人(大阪大学大学院文学研究科教授) 受講料2,000円 17世紀末の河村瑞賢らによる河川整備事業により、幕府の畿内治水体制が確立しました。しかし、この体制は長くは続きませんでした。今回は、特に淀川筋の堤外地(堤防と堤防とに挟まれた地) 政策に注目し、幕府畿内治水政策の転換を考えます。
28	月	2:00PM~ 3:40PM	「昭和の幕開けと京都」小関素明(立命館大学文学部教授) 受講料2,000円 明治維新以降、東京・京都で衰退に見舞われた京都。それを克服すべく懸命の努力を重ねられ、次第に近代都市へと脱皮したが、都市の発展は多くの歪みを生み出した。昭和へと移行するなかで京都が抱えた問題とは。今日にも通じる都市問題を垣間見てみましょう。

会場／立命館アカデミア@大阪 インターネット、もしくは立命館大阪オフィス窓口にて受講申込書を入力し、内容記入のうえ、FAX、E-mail、郵送いずれかの方法でお申込みください。http://www.ritsumeiji.jp/life-09/e09_10kyo.html
〒541-0041 大阪市中央区北浜3-1-18島ビル6F 立命館大阪オフィス ☎06-6201-3610



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線にわ橋駅地下1階の【アートエリアB1】。6月のラインアップはこんな感じ。

8	火	6:30PM~ 8:30PM	サイエンスカフェ「あなたの『?』に応える生物科学」 定員30名 日常生活で「なんでやる?」「何とかならん?」といった疑問や要望はありませんか?生命科学の最前線で研究する大学院生と話し合います。ゲスト:大阪大学生命機能研究科有志大学院生 カフェマスター:平川秀幸(大阪大学CSCD教員)
9	水	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレッジ/哲学カフェ「『幸せ』ってなに?」 定員50名 コーヒーを飲みながら、幅広いテーマについて参加者みんなで議論を楽しみます。6・7月のテーマは「希望をさがす」。今回はその導入として、私たちに「幸せ(幸福)」とはどういうものかを話し合います。進行役:三浦隆宏(摂南大学非常勤講師) カフェマスター:本間直樹(大阪大学CSCD教員)
18	金	6:30PM~ 8:30PM	サイエンスカフェ/「市民の視点で『科学技術』を考える:『再生医療』の課題から」(2) 定員20名(時間厳守) 環境や社会に大きな影響を与える科学技術を専門家だけにまかせるのではなく、市民参加型で考えるアセスメント手法の開発にご参加ください。再生医療の問題をテーマにサイエンスカフェ手法で皆さんと考えます。カフェマスター:平川秀幸(大阪大学CSCD教員)、山内保典(大阪大学CSCD特任研究員)
23	水	7:00PM~ 9:00PM	鉄道カフェ「鉄カフェをみんなで考える14/京阪電車秘蔵映像上映」 定員30名 鉄道ファンから、全くの初心者まで、幅広い層が参加し、様々な情報交換と対話が繰り広げられています。今年、京阪電車創業100周年を記念して、秘蔵映像の上映などを展開します。カフェマスター:久保田鉄、木ノ下智恵子(大阪大学CSCD教員)
25	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレッジ/臨床哲学セミナー「社会のベッドサイドで哲学を」 定員50名 『ドキュメント臨床哲学』が世に問われるのを機に、社会のケア現場にコミットする臨床哲学の理念と活動を検証。今回は神経難病ALS患者の方から「希望」を掲げ続ける私たちの身体について話し合います。ゲスト:伊藤友哉(IAMAS) カフェマスター:久保田テツ(大阪大学CSCD教員)、家成俊勝+大東翼(ドットアーキテクト)、甲斐賢治(NPO remo、NPO recip)
26	土	3:00PM~ 5:00PM	マンガカフェ5「マンガ、ニホンゴに出会う」 定員50名 『日本人の知らない日本語』の作者の一人、蛇蔵(へびぞう)さんを迎え、作品誕生のマル秘エピソードなど伺います。また、留学生の参加者と、外国人から見た日本語とマンガを語ります。ゲスト:伊藤友哉(イラストレーター兼コピーライター) カフェマスター:伊藤遊(京都精華大学国際マンガセンター研究員)、金水敏(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長)
30	水	7:00PM~ 9:00PM	オルタナティブカフェ「(U)STREAM」ってどうよ?」 定員40名 いま巷で盛り上がりつつある「Ustream」について、その実践を紹介し、そこに生まれる課題やコミュニケーションの姿について議論しながら、新しいメディアに対峙する私たちの身体について話し合います。ゲスト:伊藤友哉(IAMAS) カフェマスター:久保田テツ(大阪大学CSCD教員)、家成俊勝+大東翼(ドットアーキテクト)、甲斐賢治(NPO remo、NPO recip)

会場／アートエリアB1 問い合わせ／【カフェの内容について】大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6111(豊中キャンパス代表)
参加費／すべて無料 【場所などについて】アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
開場／それぞれ開始30分前から ※申し込みは不要ですが、当日先着順とさせていただきます(入退場自由)。※お客さま参加型のプログラムです。

大学時代、ひまを見つけては、よく一人旅をした。森鷗外の『雁』の舞台を求めて、東京上野の無縁坂を訪ねたり、夏目漱石の『坊ちゃん』の面影を偲んで松山道後温泉に行ったり、あるいは安部公房『砂の女』の雰囲気味わおうと、鳥取砂丘をさまよったりした。渡辺淳一の『阿寒に果つ』を片手に、3週間かけて北海道を一巡したこともある。

太宰治の生家を訪ねて、津軽へも行った。5回生の秋、大学祭をさぼって1人で行くつもりだったが、直前に友人のTといっしょに行くことになった。彼はこの連載の第2回で、私の決死のカンニングを助けてくれ、第6回では「大阪名所を漫步する会」とともに結成した同級生である。

Tは旅行に出る前に、有益な情報を仕入れてきた。国立大学の学生は、日本全国どこ国立大学の寮にも、1泊100円前後で泊まれると

いうのだ。それで私たちは、日本海側から順に国立大学の寮を泊まって行くことにした。移動手段はヒッチハイク。これはその前年、私が北海道旅行で味をしめた方法だ。これで食費以外ほぼ無銭で旅行ができることになった。

旅行初日。私たちは互いにオモロイ恰好で行こうと打ち合わせていたので、私は祖父が旧制高校で着ていたマントをはおり、革トランクとコウモリ傘を持ち、オールバックに丸縁眼鏡という古風なスタイルにした。Tはアポロキャップにダウンベスト、バックパッキングというナウなスタイルだったが、荷物の両側に日の丸を立て、足下は途中からワラジになった。

都会ではヒッチハイクはむずかしいので、取り敢えず電車で敦賀まで出た。そこからいよいよヒッチハイクのスタートである。コツは陽気に明るく手を振ること。よくある親指を立てる

ポーズなどでは止まってくれない。できるだけ無邪気な青年を装い、屈託のない笑顔を見せて大きく手を振る。止まってくれたらすかさず駆け寄り、行き先を告げて同乗をお願いする。素通りする車も多かったが、止まってくれればたいていは乗せてくれた。

1日目は地元の男性、老夫婦、トラックなどを乗り継いで、富山大学の寮に泊まった。ほんとうに100円で泊まれるのかどうか半信半疑だったが、気のいい寮生が歓待してくれ、空いた部屋を使わせてくれた。ただし、寝具はないので、寝るのは持参したシュラフ。

2日目は新潟大学、3日目は弘前大学と順調に進み、4日目に津軽まで到着した。

新潟ではなかなか車が見つからず、やっと止まってくれたと思ったら地元のチンピラで、無理やり車に乗せられそうになったのを、あたふ

中之島ふらふら青春記¹³ 久坂部羊

東北一周ほぼ無銭旅行



たと逃げたりした。

半日歩いて、今日はだめかと思っていたら、午後にはうまい具合に長距離トラックに乗せてもらうことができ、これで一気に行程が進んだ。それはよかったが、運転手が気の荒い人で、野球の話に熱中し、巨人ファン以外はぶつ殺すなどと言うので、阪神ファンのＴと私は、泣く泣く巨人を礼賛せざるを得なかった。

津軽では泊だけ奮発して、太宰の生家である斜陽館に泊まった。煉瓦塀を巡らせた赤い大屋根の豪邸は、往時の貴族的な生活を偲ばせ、ここで太宰が生まれ育ったのかと思うと、その人生と作品の鬱屈も理解できる気がした。

部屋は二階の「斜陽の間」。襖に書かれた漢詩に「斜陽」の文字があり、太宰はこれを感じていて、小説のタイトルに使ったのではないかとと言われる部屋である。

斜陽館では4日ぶりに風呂に入り、頭も洗ってさっぱりしたが、これは善し悪しだった。というのは、汗臭さも2日目、3日目は不快だが、4日目には慣れて、あまり不快でなくなっていたのを、また清潔にしてリセットしてしまったからだ。

翌日、斜陽館のある金木町から五所川原に向かう車に乗せてもらったら、小林亜星を若くしたような運転者が、これからどこへ行くんだと聞くので、十和田湖の方へまわろうと思います

と答えると、この季節にそんなところへ行く車はない、オレが連れて行ってやると言ってくれた。

五所川原の事務所短時間の仕事を終え、青森市方面に向けて津軽半島を横断。途中で、豪勢な天ぶらざるうどんを食べさせてくれ、ついでだからと「八甲田山雪中行軍遭難資料館」に寄ってくれ、十和田湖に着いたら遊覧船にのしよに乗って、子ノ口から対岸の休屋までつき合ってくれた。その間、昼食代から各種の切符代はすべて出してくれ、十和田湖では自分の車を対岸まで運ぶ代行の料金まで負担して、遊覧船に乗ってくれた。なぜそこまで親切にしてくれるのかまるでわからず、またこの人の仕事は大丈夫かと心配しつつも、親切に甘えてしまった。私のなかで日本の親切な人ナンバーワンの座は、今もってこの人から変わらない。

休屋では高村光太郎の有名な「乙女の像」など見たあと、一夜ぐらいいは野宿しようと、適当な場所をさがした。ところがあいにく雨が降り出し、屋根のあるバスターミナルの待合いベンチで寝ることになった。自動販売機でワンカップ大関を買い、日も暮れたので二人で飲みながらシユラフに入った。屋外で寝るのははじめてで眠れるかどうか不安だったが、あれこれ話すうちに酒で身体も暖まり、ウトウト寝込んだ。

夜中に暴風雨になり、屋根を叩く雨の音で目が覚めた。そろそろ朝かなと思って時計を見ると、まだ午前3時。酔っていたので夜更けと思ったが、寝ついたのは午後9時ごろだったらし

い。それから眠れず、寒いし身体は痛いし、夜が明けるまで長時間、難渋した。

それから紅葉真っ盛りの奥入瀬渓谷を歩き、6日目、7日目は岩手大学の寮に泊めてもらった。盛岡でわんこそばを食べ、小岩井農場でバター飴をなめ、「啄木新婚の家」などを見物して、平泉では中尊寺の金色堂、毛越寺に寄り、8日目に仙台に着いて、国宝級の古さと汚さを誇る東北大学明善寮に一夜の宿をとった。

このころにはヒッチハイクにも慣れ、長距離トラックのドライブインで次の車を見つけるという裏ワザも会得した。トラックの運転手は総じて親切で、食事をおごってくれたり、ドライブインで次の車をさがしてくれたりした。

9日目の夜は深夜トラックに乗せてもらったが、ウトウトしたら怒られた。「おまえらに乗せたのは、オレの居眠り予防のため」と言われ、ずっと話相手をさせられた。

最後は東名高速のサービスエリアで、泉ナンバー(当時)の車を見つけて、運転手が仮眠から醒めるのを徹夜で待った。ようやく運転手が起きたので、窓をノックすると、「これから東京へ荷物を取りにいくところ」と言われてがっかり。それでもうまく尼崎まで帰るトラックを見つけ、10日目の夜に無事、大阪までたどりついた。

青春ならではの貧乏旅行。Ｔと私は、大学祭のみならず、講義と実習を5日サボった。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える

契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

今月発売の『小説すばる』に、ちょっとアブナイ変態小説、

『四肢切断少女』が掲載の予定。



ナカノシマ大学をはじめ、「学びの場」情報も加わり、中之島から大阪へと拡大しつつある『月刊島民』。「遠方に住んでいてなかなか手に入れない」「先月はうっかり取り損ねてしまって…」ファンの方のそんな声に答えるべく、昨年末から試験的に定期購読を行っていましたが、今年春からは本格的にスタートしています。毎月、確実に読みたい方はぜひお申し込み下さい。

●料金

9ヶ月／1,800円（2010年7月号～2011年3月号）

※料金には送料・手数料を含みます。

※6月25日（金）までにお申し込みいただくようお願いいたします。

●お申し込み方法

1.郵便振替 口座番号：00990-5-299267

2.現金書留 料金を同封し下記の宛先までお送り下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F

月刊島民プレス（株式会社140B内）宛

◎ご入金を確認した時点で、ご連絡を差し上げます。

郵便振替の場合、手続きに2週間前後かかりますので、ご注意ください。

※諸事情により、到着が2～3日遅れる場合があります。予めご容赦下さい。

※原則として、途中解約は受け付けておりません。

※ご記入いただいた個人情報（冊子・サービス）

お届けするためだけに利用し、その目的以外での利用はいたしません。

●お問い合わせ 月刊島民プレス 定期購読係 106-4799-1340

季節の地元野菜と
シャンピニオンのクックポット

世界中のアラン・デュカスのレストランでこの春から提供されているクックポットは、アラン・デュカスの料理を象徴する「野菜」の美味しさを最大限に引き出した料理です。

ル・コントワール・ド・ブノワでは、地元関西の旬野菜7種類をマッシュルームと鶏のパイヨンと共に、オープンでじっくり火を入れ炊き上げました。

野菜本来の美味しさを実感できる旨味たっぷりの一皿です。

クックポットランチ ¥1,800

（パン・デザート・コーヒー付き／税込・サレ）
ディナーではアラカルトまたは
コースに組み込んでお楽しみいただけます。

ル・コントワール・ド・ブノワ

大阪市北区梅田2-4-9

ブリーゼブリーゼ33F

☎06-6345-4388

<http://www.comptoirbenoit-osaka.com/>

ランチ11:00AM～2:30PM (L.O)

カフェ2:30PM～4:00PM (L.O)

ディナー5:00PM～9:30PM (L.O)

不定休

野菜を味わうことは、
土地を味わうこと。

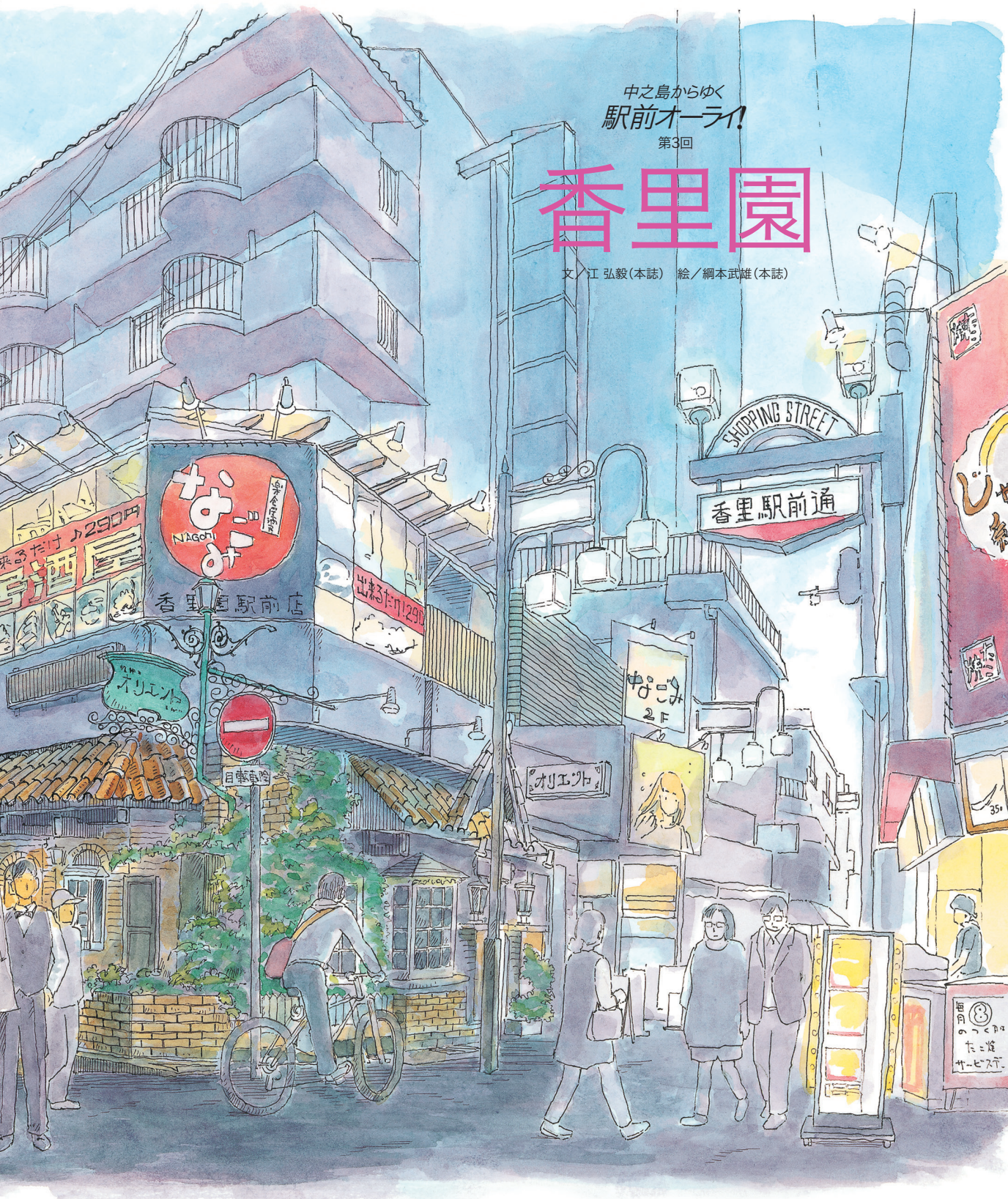


LE COMPTOIR
de
BENOIT
OSAKA

中之島からゆく
駅前オーライ!
第3回

香里園

文／江 弘毅(本誌) 絵／綱本武雄(本誌)



「山の手／下町の
二項対立では捉えられない。
しかし、紛れもない大阪の街。」

香里園。名前から字ツラからも山の手であり高級住宅地的な感じがする。

その象徴的存在はなんといつても歩いて10分ぐらいの距離にある聖母女学院だ。昭和8年（1923）のフランク・ロイド・ライトの弟子であるアントニン・レーモンドによる建物は、国の文化財に指定されている。一度、取材見学させていただいたことがあるのだが、広い石貼りの廊下でつなぐE字型の校舎は、「丘の上の学校」といった口ケーションとあいまって、欧米の古い映画に出てくるミッション・スクールそのものの空気がある。大正10年（1921）、フランスからカトリックの修道女が来日、という沿革を知ればなおのこと、香里園の山の手イメージを牽引しているかのようだ。

その香里園だが、もちろん駅前はあるし商店街もある。そこが大阪／北河内の街の深いところで、商店街はディープな昭和の風景を残す「香南横丁」

（名前までシブいなあ）を含めて4つばかりある。その香南横丁には中華料理「大三元」、居酒屋「田吾作」、スナック「姫香」と、こぎげん極まりない名前の店が並んでいる。

交差点を渡ると別の名前の商店街。つたり、商店街と商店街が通ってクロスしたり隣接したりするこの街の商店街は、なによりもチェーン店のファストフードや飲食店よりも、お好み焼き屋、焼鳥屋、パン屋にしろ洋食屋にしろ「一本どっこ」のお店が目立っている。またマンション裏の谷間にグルメ誌でも超有名なカレー店があったり、店舗の2階以上が住宅それも低層ドミトリ風の建物だったり、ピンクや紫のバックに店名がズラズラっと書いてある大きな看板板の「スナックビル」……。北摂や阪神間とはまた違った街的な風景をつくっているのだ。どう言うのだろう、香里園の駅前にある商店街の手触りは、山の手／下町といった二

項対立では捉えられない。キタや京橋といった街中ではなく近郊の感覚なんだが、それでもまぎれもなく大阪だという、どこか人なつこい雰囲気があるふれている。だから通い甲斐がある街で、店の常連になるとかなり楽しそうだ。

この街をよく知る友人に連れられて居酒屋に入った。銭湯の木札靴箱が入口にあるお洒落でモダンな居酒屋である。黒板にチョークで書かれた「本日のおすすめ」には、「初カツオのたたき（和歌山）」「金目鯛の煮付け（東京）」

などと書かれていたが、彼が「この店の人気定番だ」と進めたのはエビフライだった。そしてワインではなく生ビールと日本酒。そういう街なのである。

「地元民ならだれもが知っている」という喫茶店は、かなり大バコで時代がかかっている。覗こうとすると、この春から休業中だと貼り紙が出ていた。そこには「×月に友人が再開予定」というふうに書かれていたが、きっとその通りにそのまま再開するのだと、理由なく思った。



光に与えられた物語が、
「人の息づかい」を生む。

星や月も夜の光を生み出すが、灯り
を生み出すのは人だけだ。昔は炎、今
は電気。だが、灯りはただの電気の光
ではなく夜を生きる人の文化なのだ。
そんな灯りからこぼれてくる光の話を
しよう。

夜の中之島に最も印象的に浮かび上
がる風景といえば中央公会堂だ。その
秘密は位置にあると思っている。南北
に川、東から来る道路の突き当たりと
いう三方がオープンスペースに囲まれ
た立地で、視界を遮るものがほぼない。
だから遠くから見ても光で浮かび上が
り、印象的な風景になるのだ。

中央公会堂を照らす灯りは実は古い。
「ライトアップ大阪」の名のもとに始
められた昭和58年当時の写真からは、
灯りの種類も少なくただ照らされてい
るような印象を受ける。コントラスト
も強い。闇が濃い。濃い闇が建物をい
かめしい顔に変え、夜は人を寄せ付け
ない建物だったかもしれない。

大正7年（1918）竣工の中央公
会堂は、8年前に建物の永久保存が決



改修工事前のライトアップの
様子。彫りが深く、陰影が強い。

まり、その再生工事の時、灯りも生ま
れ変わり緻密な演出が施された。赤レ
ンガの外壁は地下の基壇部分から。正
面の4本の白い柱は入口横の金属の箱
の中に納められたライトで照らされる。
屋上ラインは線状の灯り。塔屋のドー
ムは複数のアームに囲まれ照らされる。
広場に立つ3つのポールからも細部の
影を消す光が加えられている。建物の
細部にあわせて違う方法で光を照らす
ことで、テクスチャまで際立つ。灯り
の種類も暖かい色のハロゲン灯や、冷た
い色の蛍光灯など建物の色がよく分か
るように「色温度」を変えている。中
央公会堂の夜に色を取り戻されたのだ。
もう一つ気に入っている演出がある。

それは光に持たされた物語だ。窓とカ
ーテンの間に灯りがあり、たとえば中
にいらなくても、光がもれるように演出
されている。話し声や笑い声が聞こえて
くるかのようにとる窓あかりからは、
夜の中の島に人の気配をこぼすようだ。
灯りの消える時の物語もいい。建物
を照らす光は時間とともに徐々に消え
て行く。まず足下の基壇が闇に包まれ
る。そしてボディを照らす灯りが落ち、
塔屋だけが最後に闇のなかに浮かび上
がる。時間が来たら自動的にパチリと
消えてしまうのではない。名残を惜し
むようにゆっくりと建物を眠りへと誘
っているのだ。そんな物語を想像する
と中央公会堂がより愛しく見える。

大阪の冬を代表するイベントとなった
「OSAKA光のルネサンス」では、壁面
に映像を投影する「光絵画」の舞台と
して注目を集めた（写真は昨年のももの）。



今月のスポットライト!

建物の正面の太い柱を照らすための
ライトボックス。手前はオレンジ色、
奥は青っぽい白と、光の色を使い分
けているのが分かる。基壇部分にも
同じような仕掛けがある。



中之島へ光を見に行く。

vol.1

大阪市 中央公会堂

取材・文/花村周寛

(ランドスケープデザイナー)

取材協力/坂倉建築研究所

大阪・光のまちづくり企画推進委員会 関西電力

また来てしもたわ、 あー中之島。バックキー インウエ

其の九 子供の頃にあったものを あらそうとして飲む祭。

5月5日に藤森神社に行った。お祭り。おっ
ちゃんの家が藤森神社の近くにあるので俺は子
供の頃から5月3日と4日、そして本番の5日
まで毎日広い境内いっぱい的に屋が出る藤森神
社へ毎日2回も3回も行ってた。

祭りは当日よりも近づいてくる日々が楽しい。
特に子供の頃はそうだった。けれども大人にな
ってからは前日からはなかなか行けず、特に自
分の家や店がホストになる祭りは前日までいる
いる段取りなどがあり楽しんでられない。申し
訳ないけれど毎年当たり前のように親戚の家
やツレの家の祭りの時に昼から寄せてもらって
酒やビールをもらい、ちらし寿司や鯖寿司をい
ただきながら集まっている子供や奥さんやいと
こに、あーでもないこーでもないと言ってええ
おっさんが座敷に集まってウダウダ飲んでいる。
そして子供たちを適当につかまえて何度も人が
ごった返す境内の緑地に行く。ちなみに俺は
的屋という言い方をしなかった。俺は「ヨミセ」
と呼んでいた。俺の地元だけなのか。まあいい。

子供たちを連れながら「おー銀ちゃん、ヨミ
セ行って串カツ食おうや。おっちゃん、あ
のちっちゃい串カツがたまらん好きなんや。せや
けど子供の頃はおばあちゃんやらに食べたらあ
かなくて言われてたし、大人になってからいっ
ぱい食うたる思ってたんやけど胸が焼けるし今はあ
んまり食べられへんや。せやけどなんやペー
コンエッグ焼くって、シシカバまであるのん
かー、鯉釣りやら鰻釣りやらなくなってしもた
んかー、ひなちゃん型抜きしー、おっちゃん子
供の頃な輪投げと型抜きうまかったんやでーか
しこかったしなー」などと言いつつ境内のヨ
ミセを一通り回って親戚の家に戻る。そしてそ
の成果やグチを着にしてあーだこーだと叔父や
叔母や兄弟たちと飲む。その飲み方や寿司の食
い方や誰かに向かってあれをくれという言い方
は、俺が子供の頃に叔父や親父がやっていたこ
と・言い方・そのタイミングも全く変わってい
ない。俺の弟が飲んで食っている姿も子供たち
に小遣いを渡してやっている姿も、俺が子供の
頃に見た叔父さんと気持ち悪いほど同じだった。

そして夕方、少し飲み飽きてきたので義理の
弟や甥を誘って銭湯に行った。女性たちが石鹸
やらやシャンプーを用意してくれるも、帰りに
ヨミセで飲む時カッカ悪いしタオルだけを持っ
て行く。カラダにメチャクチャ悪いらしいとい
いながら熱風呂と水風呂を何度も交互に入っ
てると祭りの夜の気分になってくる。銭湯を出
て義理の弟と甥とでヨミセのおでん屋に寄って
一杯飲んで親戚の家に戻った。いつのまにか伏
見のおっちゃんや親父たち、いわば長老たちは
酔って同じことを何度も娘や孫に言っていた。

それにしても俺はヨミセが大好きだ。胸は焼
けるけどなー。

ばっきー・いのうえ 京都・錦市場の漬物店【錦・
高倉屋】店主にして日本初の酒場ライター。雑
誌『Meets Regional』などで名フレーズを量産
中。近著『京都 店 特撰』が絶賛発売中。

今月の テーマ【絵描き】

絵になる場所が多い中之島には
お洒落な絵描きさんが多い。
そんなアーティストたちの
ファッションもまた絵になるのだ！

取材・文・写真/山岸政仁

審査員／大平秀峰さん
[NAKAGAWA1948 尼崎店] 店長



淀屋橋・西梅田の両店舗にておなじみの島
民御用達ターラー。その絶妙な採寸テクニ
ックから「ゴッドハンド」の異名を持つ大平
店長は、昨年の春に再オープンしたした尼
崎店へ。アマからシマを見つめる。http://
www.nakagawa1948.co.jp/main.html

手先は器用な元バネ職人。



なろみちのり
奈路路程さん(46)

月刊島民の表紙イラストを描いています。たいていは
下書き無しの一発勝負。気に入らない時は「クシ
ャクシャツと丸めて投げ捨てます」と言いたいとこ
ろですが、柔らかく丸めてそっと捨てます。子供
に絵を教えたこともあるのですが、何を教えて良い
のやら分からず、一緒に絵を描いていただけでした。
反対に子供の絵からインスピレーションを感じ、ち
やっかり作品に取り入れました。



中間色のカーブオールとパンツ、そしてギン
ガムのシャツをアクセントに。色・素材・柄
とも優しい感じにまとめてはります。セオリーです
ね。作っていないナチュラル感が、川のようにこん
こんと湧き出ている。軽快な筆の運びがファッ
ションにも表れています。

短期決戦のイラストレーター。



田邊 勤さん(71)

レトロな建物が好きなので、週2回は自転車に道
具一式積み、自宅から30分かけて走って来ます。
「大阪を描こう会」の入選も果たしました。以前は
町工場でバネ職人をやっていた、手先は器用なん
です。絵は小学校の時に先生に褒められたのがき
っかけ。中之島は若い頃、ようアートを来て川沿
いのベンチで彼女と仲良くして懐かしい場所です。
今も通りがかりの女性がよく話しかけてくれ、お友
達になれたり、毎日が楽しいです。



いやあ、このメガネ、三代目の中村鴈治郎
を思い出しますね。アンダーウェア、ネルシ
ャツ(ええの着てはります!)、フィッシングベスト、
そして何と言っても軍手がアクセントになっていま
す。全部がアクティブ。それでも「キチツとした人
の崩し方」という感じがしますね。もしかすると中央
公会堂の色まで計算に入れておられるのやも。機
能性も洒落っ気もある。職人さんらしい雰囲気か
伝わってきますよ。



現代の風景画を描く。

中川真一さん(25)

週3回以上、ビルの窓に映る幻想的な風景を描き
続けています。フランスで育ち、絵が「回りにたく
さあったので、自然に絵描きに慣れるようになりま
した。フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」を
見た時、ゲイジツというものを強く衝撃を受け
ました。今は大学院で日本画を専攻しています。描
いている時は「絵描き・ハイ」になっちゃってます。
日展に入選したこともありますよ。



橋の下の川べりで書くという、この若さ!
頑丈な素材のマウンテンパーカーは、風や
水に負けまいとする強い意気込みでしょう。奈路さ
んとは反対に、内面に溜め込んでいるものを少し
ずつ丁寧に描き出そうとする画風なのでは。これ
も若さゆえでしょうか。

ハ イボールブームでウイスキー人気が復活の兆しらしい。そんな折、全国にこんなニュースが配信された。「60年前の『ニッカ』と再会 創業家の竹鶴氏、大阪で」。舞台は淀屋橋、昭和2年（1927）築の芝川ビル。地下金庫室に眠っていた秘蔵ウイスキーの試飲会が開かれたという話。旨そうにグラスを傾けるレディース&ジェントルメンの写真に、「残り香だけでも…」と、遅ればせながら話を聞きに行く。

ビルを所有する会社（ひつもと）百又によると、ウイスキーは2年半前、金庫室の片隅で発見された。「NIKKAWHISKY」の銘入り木箱にボトルが12本。未開封だったが、ラベルは風化してボロボロ、中身もかなり減っていた。「お宝発見というより、『え、ちょっとこれ飲めるの?』という感じでした（笑）」。

が、この琥珀色の液体こそ、ニッカウイスキーと芝川ビルの深い縁を語る歴史の証言者だったのである。

旦那イズムを語り継ぐ秘蔵ウイスキーがあつた。

ニ ッカウイスキーは昭和9年、竹鶴政孝が「大日本果汁」として創業。日本人で初めてスコットランドの製造技術を学んだ竹鶴は、寿屋（現サントリー）から独立し、北海道の余市に蒸留所を構えたものの、ウイスキーは最低3年の熟成期間が必要。その間リンゴジュースを作っていたのだから、苦難の創業期を大株主として支えたのが、芝川ビルオーナーの芝川又

四郎。竹鶴が住んでいた家の大家だった。大日本果汁の設立総会とは同ビルで開かれ、大阪出張所も置かれた。「両者の交流は話としては伝わっていましたが、実際に証明する物が出て来たのは初めて」。ボトルは戦中、昭和25年までの商品と見られ、どうやら株の配当代わりに贈られたものらしい。アルコール度数は十数度まで落ちていたものの、試飲会に出席したニッカ相

談役の竹鶴威氏（政孝の息子）は「何かと不自由な時代に苦勞して作った記憶がある。物のない時代によく残ったものだ」と感無量のコメント。同年代の製品は他に残っておらず、同社の博物館（北海道）に展示される予定だ。

と、ここまで聞いて辛抱できるはずもない。芝川ビル1階のパブ「The Court」の扉を押し、スーパニッカのハイボールで喉を潤したのだった。



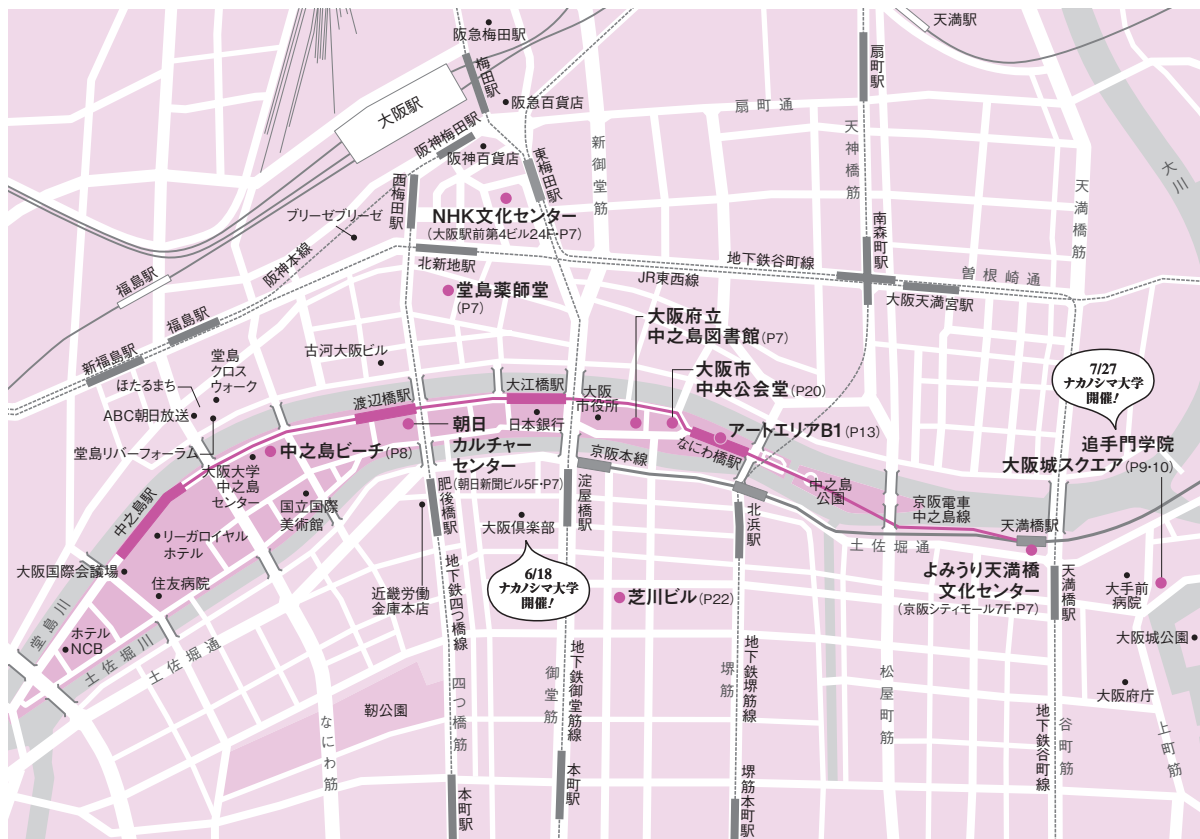
（左）3月の試飲会には、ニッカの関係者から新地のキレイどころまで50人が参加。「余市の風景が見える」との声も漏れた。（右）芝川ビル1階のパブは、看板にビルイラストと「NIKKA」の文字を掲げる。

竹鶴政孝（1894～1979）

寿屋（現サントリー）に招かれ、山崎蒸留所工場長として、日本初の本格スコッチ・ウイスキー製造を指揮した。その後、より理想に近いウイスキーの製造を目指し独立。品質にこだわり続けた技術者で、「日本のウイスキーの父」と呼ばれる。留学先で結婚したリタ夫人が、芝川又四郎の娘たちに英会話を教えていたという縁もあった。

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
書店：ブックファースト梅田店/旭屋書店 本店/旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店淀屋橋店/福家書店 淀屋橋店/天牛書店 大江橋店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店天満橋店/紀伊國屋書店 京橋店/隆祥館書店/なんば書店カルチャーコーナー
公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中心公会堂/府立中之島図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪市立中央図書館/大阪歴史博物館/大阪城天守閣/大阪狭山市立図書館/奈良県立図書館情報館/大阪国際会議場/市立住まい情報センター/大阪商工会議所/大阪社会福祉研修・情報センター/大阪企業家ミュージアム/味の素 ライブラリー/朝日カルチャーセンター/大阪大学中之島センター/大阪大学本部/大阪大学21世紀記憶館/摂南大学地域連携センター/慶應大阪リバーサイドキャンパス/追手門学院 大阪城スクエア/追手門学院 大手前センター/関西学院大学大阪梅田キャンパス/専門学校中之島美術学院/大阪工業技術専門学校/ろうきんギャラリー心斎橋/大阪倶楽部/中央電気倶楽部/芝川ビル/ N4タワーマシオンパビリオン/ホテルNCB/ABC朝日放送/大阪フィルハーモニー会館
店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可/ラ・クッカーニャ/アリアスカ マーブルトレ/MANGUEIRA / Girond's JR / じろう亭/ミニジロー/黒門さかえ/花かつ/ティーハウスムジカ/ MJB 珈琲/平岡珈琲店/喫茶SAWA / アンドール本町本店/あじさい/ Calo Bookshop and café / EXPO CAFE / BAR THE TIME 天神/タバーン/シンパソン/パストラーレ/ LES LESTON / 大西洋飯店/上町貸自転車/ザ・メロディ/セブンイレブン大阪証券取引所/吉田理容所/たまたが鍼灸整骨院/宮崎歯科/心斎橋山田兄弟歯科/東郷歯科医院/ネイルサロンスワンナ

バックナンバーお譲りします。

2008年8月に創刊した『月刊島民』。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか？」と月刊島民プレスを訪ねてくる方々の多さからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきまして、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していただく形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。お問い合わせは下記の電話番号まで。

次号予告

天神祭を見る。

大阪の夏の風物詩ともいべき天神祭は、中之島とのゆかりも深い。
その見るべき点は、どんなところにあるのだろうか？

●『月刊島民』vol.24は2010年7月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅 (編集集団140B)

編集・発行/月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄 (株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力 (編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行/堀西 賢 (ALEGRESOL)

デザイン/山崎慎太郎

表紙イラスト/奈路道程

印刷/佐川印刷株式会社

きれいな花と
はい、パシャリ！



ゆるる花たちが
話しかけてくるようで、
ふと、耳を澄ませました。

おけいはんの(新)発見

梅薺けい子 (大学生)

おけいはん、初夏の花と。

みずみずしい季節に誘われて、京阪電車で花めぐり。



勸修寺



平安神宮

花しょうぶ

しろきたこうるん

城北公園

◎天満橋駅または守口車庫前
(土居駅下車) からバス城北
公園前下車

山田池公園

◎枚方市駅からバス出屋敷下車

枚方市 市民の森

◎樟葉駅からバス市民の森下車

万博記念公園

◎門真駅のりかえ大阪モノレール万博記念公園駅下車

かじゅうむ 勸修寺

◎六地蔵駅・京阪山科駅から
バス小野駅下車または京阪
山科駅からバス勸修寺下車
／地下鉄小野駅下車

平安神宮

◎神宮丸太町駅または地下鉄
東山駅下車

京都府立植物園

◎出町柳駅からバス植物園
前下車

石山寺

◎石山寺駅下車



石山寺



藤森神社

あじさい

山田池公園

◎枚方市駅からバス出屋
敷下車

万博記念公園

◎門真駅のりかえ大阪
モノレール万博記念公
園駅下車

藤森神社

◎墨染駅下車

三室戸寺

◎三室戸駅下車

京都府立植物園

◎出町柳駅からバス植物園前
下車

三千院

◎出町柳駅または叡山電車
八瀬比叡山口駅からバス
大原下車

石山寺

◎石山寺駅下車

おけいはん
の
は
な
ん

おけいはん

検索

開花状況は、「おけいはん、ねっと」(www.okeihan.net) または京阪電車主要駅に掲示(～7/上旬)の「京阪沿線 初夏の花だより【花しょうぶ・あじさい】」をご覧ください。

www.okeihan.net